

住友化学 i-農力だより

<http://www.i-nouryoku.com/index.html>

第57号 9月30日
発行 住友化学(株) アグロ事業部
お客様相談室 0570-058-669
発行責任者 古津 昇

目次

農家さん訪問記 (42)	p.1
住友化学アグログループ紹介 ㈱日本グリーンアンドガーデン	p.7
食の安全性について考える(13)	p.8
今月のお奨め農薬	p.9
農薬あれこれ?なぜなに?コーナー	p.10
今月のご相談から	p.11
農薬登録情報	p.12
病害虫発生情報	p.13
最近の「お・・美味しい!」	p.14
コラム・そば談義	p.15
編集後記	p.15



ソメイヨシノ(バラ科)とヱビノ子(ヒタ科)
富樫 信樹 画

農家さん訪問記(42)

今回の農家さん訪問では、福井県でほうれんそうを栽培している若手三人グループ(光合星)を訪ね、栽培までの経緯や悪戦苦闘の様子などをお聞きしました。かなりご苦労されている様子なのに、なぜか笑顔で明るい表情。どうも社名が笑顔の源のようです。(8月19日取材)

福井のほうれんそうを北陸一に!

一昨年(2007年)、福井県の園芸振興施策の一環として、産地を育成するための事業が計画されました。福井特産のほうれんそうを栽培する事業です。この計画「産地を作ってみませんか」の説明会に出席し興味を持った彼らが結束し、この企画に挑戦しました。そこで、彼らは「農業生産法人 合同会社 光合星(こうごうせい)」を立ち上げました。昨年の7月のことです。



川村さん 石森さん 田中さん

光りが重なり合って輝く・・そのような意味があるのかと思ったのですが、星(スター)の文字をくっつけたかった、例えば「コリン星」のように・・と、爆笑しながら話してくださいました。成功してコリン星と同盟を結びたいそうです。ご存知ですか?芸能界で有名なコリン星です。

光合星のメンバーは、代表 石森達也さん(36歳) 副代表 田中耕三さん(33歳) 農場長 川村鉄兵さん(29歳)の三人です。

石森さんと田中さんは同じ町内で顔見知り。

三人は自宅でも、ほうれんそうとトマトのハウス栽培をしています。石森さんは自宅でもご自身が中心で農作業をしています。50アールの規模です。田中さんも50アールの規模ですが、お父さんが中心に農作業をやっているので光合星に力を注ぐ事ができます。川村さんは、一度はサラリーマンを経験し、その後、オーストラリアで一年間、武者修行をして帰国。戻って来たら無職なので、3年前に石森さんの農場に農業の研修に行っていたという関係です。農業は初めてだそうです。15アールの規模で栽培しています。

栽培面積は120アールで、ハウスが35棟あります。見ただけでも壮大です。

35棟のハウスと事務所の建設、農場で使用する農機具の購入は国、県、市からの助成を受けて整備しました。



農地にするための苦労話



三人にお話を伺うと、苦労話がいっぱいです。まず、土地の話です。土地改良のために土が運びこまれていたのですが、その土がやせており、石を多く含んでいました。また、ハウス建設前にずっと雑草が生い茂り、結果としてものすごい数の雑草種子が蓄えられてしまった土地です。次々にびっしり生えてくる雑草には、今でもかなり苦労をしています。地面に見えている小石かと思って掘っていたら、腰まで掘り起こし、結局機械で撤去した事もあったそうです。一年がかりで借りた

土地をさらに整地し、農地に変えたのでしょうか。おじゃました時には、ハウスが整然と建っており、4作目のほうれんそうを栽培しておりました。

ほうれんそう栽培は、暖かい時期は播種後約1ヶ月で収穫ですが、冬場は3ヶ月ほどかかります。軌道に乗ったら、周年栽培で年6作は可能とのことでした。

ほうれんそうは連作が厳しいので、連作障害を防ぐために、年に1回程度、こまつなを栽培する予定です。連作だと立枯れ病の心配があるからです。栽培が安定したら、年7作にも挑戦したいと意気込んでいました。

収穫量について聞きました。

光合星では、ほうれんそうは1袋150gになっています。上下閉じのビニールの袋に入れて売られています。通常では(一般的には)200gだそうです。

目標は、10アール当り5000把(150g/1把)750kgですが、まだ目標通りの収穫はなく赤字経営です。収穫したものは、そのままJA福井市に出荷。農協のパックセンターで洗浄、



順調に生育中のほうれんそう

袋詰めをしてくれます。1袋平均107円(卸値)です。ほうれんそうは夏場の栽培が難しいので、この時期の価格が一番高く、インタビューの時は1袋185円でした。



収穫用の機械

35棟のハウスですから、収穫作業もさぞ大変なのかを聞いてみたところ…

収穫作業の時だけパートさんに来ていただいており、平均3~5人です。収穫用の機械を見せていただきました。根こそぎカットするので作業がしやすく、短時間でたくさんのほうれんそうが収穫できるそうです。便利な機械があって良かったですね。

栽培する品種は季節によって変えるので、年に4

回くらい大きく変更します。主要品種は年間で7~8種くらいです。どんな品種ですかと伺ったら、それは企業秘密ですと言われました。若い仲間と研究会を作って、常に研究しているそうです。各自が圃場で様々な品種を試して、良いものを選択しています。株の張り、収穫に要する日数、調製のしやすさ、収量、病害虫に対する強さなど、様々なポイントで評価しています。種苗会社が次々に新品種を出してくるので、試すネタには困らないようです。

次に、害虫とか病気について聞いてみました。

虫は、ケナガコナダニ、アザミウマなどです。DDVPがなくなるので、それに代わるものがないので困っていますと石森さん。

病気は連作すると、べと病が問題になると思われませんが、今のところ出ていないとの事です。

先ほど少し話ができましたが、苦労しているのが雑草対策です。



こちら、収穫時に使う機械です。刃が土中に入って、根を切って行きます。土が硬い時に使うそうです。



フェロモントラップを見ている小角所長と弊社社員

ただいま雑草と格闘中



雑草がいっぱいのほうれんそう畑

「いやぁ~種を蒔いたら、ほうれんそうと同時に雑草も出てきた時には、ほうれんそうの収穫をあきらめ、雑草ごと刈り取る事もありました!はんぱじゃないんですよ雑草の密度!」と石森さん。インタビューのあとハウスの中を見せていただきましたが、ほんと、ほうれんそうと雑草が一緒になっていてア然としました。

クロルピクリン剤で土壌消毒もやっているんですけど・・・と、そのハウスもみせていただきました。近くにいただけでも臭かったです。35棟を3人で管理するのは大変だろうと思いましたが、3人で頑張っているそうです。今の時期はカヤツリグサがびっしり生えています。手で抜くこともありますが、除草剤を使うこともあります。ただ、夏場は薬害が出やすいので、収穫



土壌消毒する機械



土壌消毒中のハウス

をあきらめて、ほうれんそうごとすき込んで、クロルピクリン剤で土壌処理をしてしまいました。「それでも1割くらいは残るんですよえ〜」と石森さん。また、予想以上に土地がやせていたので、土作りでも苦労しています。肥料もこれで良いだろうと必要量を投入したはずが、土壌分析の値に反映されていないのが現状、もう試行錯誤の連続です。色々な人に話を聞いて様々なことを試している最中。この土地で成功したら、全国どこでも栽培できるのではと思いますよ、とのことでした。

あの雑草を根こそぎ枯らし、薬害が出ないような都合の良い薬が出ると光合星は、社名通り、輝く星になるのになぁ〜と思いました。

雑草との格闘する日が少なくなる事を祈っております。みなさん、頑張ってください。

農魂グループの立ち上げ！



農魂グループのTシャツ

さて、こうやって試行錯誤している間は、ほうれんそうの収穫量もままならないので、なかなか収益も上がりません。補助があるとはいえ、借り入れた自己負担金の額も大きくなっています。そこで、経営の強化や事業の発展を目指して、若手の法人をメンバーとした「農魂グループ」を立ち上げました。現在、参加法人は光合星を含めて2社だけですが、もっと数を増やしたいと考えています。ちなみに、もう1社は若手の米農家の法人で、現在約160ヘクタールの規模とのこと。グループを作る事で農産物の販売などの営業力・農業資材の仕入れや経理面の

強化など、各分野を充実させるという考えのもと、彼らは前向きに進んでいました。グループの活動が軌道に乗ったら、知識やノウハウを次の世代に継承できます。農魂グループの成功を祈ります。

今は北陸で一番のほうれんそう産地にしたい！と、力強く話してくれた三人です。日本一の産地にしたいと夢は大きかったです。

農業は継承もありますが、新しい風も必要でしょう。若い人たちが試行錯誤で得た知識を広め、新しい農業の発展につながればいいなぁと思いました。

地元で注目の光合星！

お話を伺った事務所のスケジュール板に、NHKとかハウス食品の名前がありました。

NHKの取材の時には、レシピとして、「ほうれんそう餅」を作ったそうです。ヨモギ餅のほうれんそう版のようです。地元のニュース番組で放映されていたそうです。

ハウス食品では、「地元野菜を入れてシチューを食べよう」という企画(CM)が北陸三県であり、福井のシーンは光合星で撮影されたそうです。CMの撮影には、女優さんと20人くらいのスタッフが来られたそうです。また、このCMには石森さんと田中さんのご家族が参加して、なんと、セリフもあったそうです。もちろん、ほうれんそうを使ったシチューを作ったのですが、彼らが作ったのではなく、専門の人がお料理を作ったそうです。今年の10月くらいから北陸地区限定でCMが流れるそうです。ちなみに川村さんのトラクターが0.5秒くらい映っているそうです(笑)。地域限定なので見られないのが残念です。



JA福井の三上氏(左端)と光合星のメンバー

個人的には、ほうれんそうは「茹でて食べる」「ベーコンを細く切り、しょうがはみじん切り、ほうれんそうはざく切り炒めでパスタの具にする」「茹でて卵を薄焼きにして巻く」「シチューの色づけに茹でたものを入れる」などの調理でいただいています。また、ほうれんそうは緑黄色野菜の代表でもあり、多く含まれる栄養素には、ビタミンA、カルシウム、鉄などがあります。ビタミンAは、目の健康、鉄分は貧血予防などに効果があります。改めて体に良い野菜と確認しました。

「光合星」をネットで検索したら、地元福井新聞の県内企業の動向というテーマで「農業の後継者不足が進むハウレンソウ産地の福井市で若手農家3人が会社を立ち上げ、大規模なハウレンソウ農園の経営に挑む」の記事がありました。残念ながらタイトルだけしか検索ができませんでした。地元でも注目されている光合星の三人を数年後にもう一度訪問して、苦労話から成功の話などを伺いたいと思いました。



インタビューが終わり、農場から失礼した途端、道を間違えてしまいました。そのおかげで、光合星の農場のハウス群の全般を見る事ができました。遠目に見ても大規模な農場でした。お忙しいところ、私たちのために時間を割いていただきありがとうございました。また、質問にも快く答えていただきました。試行錯誤の様子も時折笑いながら聞かされると、ついつい話の中に引き込まれ、話の輪が広がりました。

今回の取材にあたりましては、JA福井市の営農指導員である三上様、株式会社坂本商店 福井営業所長 小角様のご協力があり実現いたしました。改めて御礼を申し上げます。

あしがき

今回はなぜかイケメン三人組。そのうちの一人の横顔が、私が熱烈に応援しているサッカーチームの選手の横顔によく似ていました。取材がとても楽しかったのは、そのせいもあったのかも知れません（笑）。

また、この訪問記を纏めているときに何度かメールで校正をお願いしたのですが、最後のメールには、奮闘中の雑草対策について情報をいただきましたので紹介します。

現在はかなり雑草を抑える事に成功しています。土壌分析の値も僅かながら上向いてきました。生育も出来の良いほうれんそうが段々できるようになってきました！

それによって、収穫作業も早くなってきました。（草を分別する手間、ほうれんそうの大きさを分別する手間がなくなってきたからです）

そして、まだまだ光合星 成長していきますよ！！・・・とのコメントをいただきました。成功を期待しています。

（手塚、南）

[目次へ戻る](#)



ハウスの説明をする川村さん

住化アグログループ紹介 **株式会社日本グリーンアンドガーデン**

ノンウィード粒剤のご紹介 「鉄道用除草粒剤と合理的な利用方法」

「ノンウィード粒剤」は、鉄道の路線の「のり面に」使用することで、殆どの雑草を枯らして非常に長く抑えることが出来る優れた粒剤タイプの除草剤です。また、本剤の開発に合わせて「サンブラーク」という粒剤散布装置も開発し、ご利用いただくことで作業の合理化を図っており、ご好評頂いております。



〔登録内容・使い方〕

適用雑草と使用方法

作物名・適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量	使用方法	使用回数
樹木等 鉄道 公園、庭園 堤とう、駐車場 道路、運動場 宅地等	一年生雑草	雑草発生前～ 雑草生育期 (草丈30cm以下)	7.5～15kg/10a	植栽地を除く 樹木等の周辺地に 全面土壌散布	本剤1回
	多年生雑草		15kg/10a		ターバシル 1回 テトラピオン 2回以内 テブチウロン 3回以内

〔鉄道沿線での使用例と散布装置〕



無処理



ノンウィード処理 8ヶ月後



サンブラーク(散布装置)

〔特徴〕

毒性：普通物、魚毒性：A類（原体） P R T R非該当

一年生雑草から多年生雑草まで幅広い雑草を防除できます。
難防除のススキやスギナにも卓効を示します。
雑草の発生前から生育期まで散布適期が広く使いやすい除草剤です。
雑草の再生を抑制し、長期間にわたって残効性を発揮します。
安全性が高く、環境に優しい除草剤です。

〔お問合せ〕

本剤と散布装置（サンブラーク）についてのお問合せは、正和商事（株）（TEL：03-5821-3971）までお願いいたします。

[目次へ戻る](#)

食の安全性について考える(13)

農薬取締法と農薬の適正使用について

農薬を取り扱うにあたり、大きな3つの安全性が問われることとなります。

第1は、農薬の取扱者すなわち農薬の製造、散布作業などに従事しているものが被害にあう場合。第2に、農薬が作物に残留し、それが摂取されて人体に影響を及ぼす場合。第3に、農薬が自然環境や生態系に及ぼす影響などについてです。

特に、近年は環境運動の高まりとともに農薬の関心も一段と強まり、それらのことを踏まえて、今回から農薬の安全性について、わかりやすく解説した農薬工業会編「なるほど！なっとく！農薬Q&A」から、皆様のお役に立つと思われる部分をご紹介します。（古津）



イラスト：加藤さん

Q 農薬とはどんなものですか？

A 農薬とは、農作物を害虫、病気、雑草など有害生物から守るために使われる薬剤です。その語源は、「農業用薬品」を簡略化したものとされていますが、現在は農作物の「農」と薬剤の「薬」を組み合わせたものをご理解ください。

「農薬」の範囲定義は法律で定められています。その法律「農薬取締法」では、農作物の病虫害防除に用いる殺菌剤、殺虫剤その他の薬剤、農作物の生理機能の増進又は抑制に用いる成長促進剤、発芽抑制剤その他の薬剤を農薬と定義しています。その他の薬剤として除草剤、誘引剤、忌避剤、展着剤などがあります。さらに、薬剤ではありませんが、防除のために利用される天敵生物も農薬に含まれます。農薬は、すべての生物を殺すというイメージがありますが、現在の農薬は特定の生物だけに作用するものや、その増殖や行動を抑えて被害を回避させるものが多く、更に、農作物の生長をコントロールするものもあります。

農薬を適切に使うことにより農作物等を有害な生物から保護し、収量や品質を維持し、また商品価値を高めるなど、農業生産には重要な役割をもつ専門的な商品といえます。農薬取締法上の「農薬」には、国の審査を経て登録された「登録農薬」と農林水産大臣及び環境大臣が指定する登録を必要としない「特定農薬（特定防除資材）」があります。登録農薬は、病虫害や雑草などに対する防除効果の確認は当然ですが、食べものとなる農作物に使うものであり、さらに環境中に直接放出するものであることから安全性について厳しく規制されています。

また、使用にあたっての基準も明確に定められ、それを守ることによって防除効果と安全性が確保されます。特定農薬は、2003年3月に、「重曹」、「食酢」、「使用される場所の周辺で採取された（地場で生息する）天敵」（たとえば、ナナホシテントウ、寄生バチ）の3種類が指定されています。

以上

[目次へ戻る](#)

今月のお奨め農薬

キャベツの黒すす病防除

キャベツは全国で栽培され、それぞれの地域に適した作型があり、栽培地域や栽培条件に応じて発生する病害も様々に変化します。主な病害としては幼苗期に発生する「苗立枯病」、葉に発生する「べと病」、「黒腐病」、「黒斑病」、根に発生する「根こぶ病」、株全体に発生する「軟腐病」、「菌核病」、「株腐病」等が挙げられます。

これらの病害は発生すると重篤な被害をもたらしますので、適切な栽培方法や農薬散布で確実に防除する必要があります。これらの病害と比較して、見過ごされがちな病害に「黒すす病」があります。「黒すす病」が発病すると結球期の外葉に褐色の病斑ができ、葉の表面がすす状になります。収穫期の老化した葉ではほぼ確実に発生しています。時には結球葉にも発生し、結球内部を侵すこともあります

が、通常病斑は外葉にとどまり、実用上問題になることはありません。しかし、「黒すす病」では病原菌が種子に付着し、次の発生源となることが問題です。この病原菌が付着した種子を播種すると、子葉の段階から発病し、子葉にくぼんだ円形の病斑が形成されます。その後、胚軸が侵され、黒色の微小点が発生し、この微小点が拡大します。胚軸が侵された苗を定植すると、生育不良になり、病勢が激しいと苗が枯死します。セル成型育苗トレイで育苗中に「黒すす病」が発病すると、灌水などによって初期の発病株から急速に二次感染し、被害が広がりますので、発病が見られたら早急に対処する必要があります。

「黒すす病」の防除では 種子消毒で発生そのものを抑えること、発生した場合、病斑の進展を子葉の段階で止め、胚軸に拡大させないことがポイントになります。この「黒すす病」対策にはポリオキシシ AL 水溶剤「科研」をお奨めします。本剤には「は種前：種子浸漬」、「は種覆土後：灌注処理」、「子葉展開期以降：灌注処理」の適用があり、種子消毒により発病率を低く抑えるとともに、子葉展開期以降の灌注処理で病気の拡大を防ぐことが可能です。また、セル成型育苗トレイでの育苗にも対応できるよう使用方法が決められています。

これからのキャベツ栽培は、暖地で行われる「秋播き春どり栽培」が主になってきます。9月から播種し、4～5月頃に収穫する作型ですが、育苗段階での「黒すす病」防除にポリオキシシ AL 水溶液「科研」を使用し、健苗育成に努めてください。

(山脇)



ポリオキシシ AL 水溶剤「科研」

[目次へ戻る](#)



畑地用除草剤は、登録のある作物になら、かかっても大丈夫？

ご質問

農業を始めて3年目です。これまで水稲だけを栽培していましたが、今年から畑でいろいろな作物に挑戦したいと考えています。そこで、畑地用の除草剤について教えてください。水稲の一発処理剤の場合は、雑草だけ抑えて、稲には影響が出ませんよね。同じように、畑の除草剤も、作物には安全で、雑草だけを枯らしてくれるのでしょうか？登録がある作物にならかかっても問題無いんですよね？

質問ポイント

畑地用の除草剤は、登録のある作物にならかかっても大丈夫ですよね？

お答え

水稲で使う一発除草剤は、水田全体に処理するにもかかわらず、稲には薬害を出さず、雑草のみ生育を抑えます。このように、作物には影響を与えず、雑草だけを枯らしたり、生えてこなくする働きを、除草剤の「選択性」と呼び、例えば、稲に安全な除草剤は、「稲に選択性がある除草剤」と表現します。

水稲除草剤の研究では、最初から稲に選択性のある化合物を目指して研究が行われ、そのような化合物が多数開発されています。一方、畑地用除草剤の場合には、対象となる作物が非常に多いので、全ての作物で、選択性がある除草剤が十分に揃っているわけではありません。

このような場合には、除草剤の性質を考え、作物に薬剤が直接作用しないような条件で使うこととなります。例えば、ハービー液剤では、多くの野菜で「雑草茎葉散布」の登録がありますが、作物を播種または定植したあとの使用法は「畦間処理」であり、作物には直接かからない使い方になっています。また、クレマート乳剤の場合、「定植前」の「全面土壌散布」という使い方があり、土壌散布後に苗を植えますが、苗を植える部分に除草剤が入らないように植穴を作るので、作物に安全に使えるのです。クレマート乳剤の場合、「定植前処理の場合、薬剤のかかった土壌が作物の根に触れないように注意して定植を行う」という注意書きが付いています。

このように、畑地用除草剤の場合には、登録があっても、作物にかかると薬害が出る場合があるので、注意が必要です。使用方法をラベルと注意書きで十分に確認してから、正しく使用してください。
(佐伯・南)

回答ポイント

登録があるからといって、作物にかかっても大丈夫な例ばかりではありません。ラベルの使用法と注意書きをよく読んで、確認してからご使用ください。

おことわり

お知らせ 本コーナーは「農業の素朴な疑問に答える」ことをモットーに、本誌第1号から連載をしてきましたが、次号よりしばらくお休みさせていただきます。

[目次へ戻る](#)

今月のご相談から

ダコニール1000を希釈する時に、 展着剤を加えなくても大丈夫ですか？

Q1. 今までは、ダコニール1000を「きく」に散布する時、展着剤を加用していましたが、入れなくても大丈夫ですか？

A1. ダコニール1000は、製剤そのものの作物への付着性が良く、分散、湿展性も良いので、基本的に展着剤を加用しなくても大丈夫です。

Q2. ダコニール1000について、いくつか教えて下さい。

A2. マルハナバチ、ミツバチに対する放飼日数は？ 放飼日数の当社としての見解は「1日」です。
治療効果・予防効果どちらですか？ 予防効果です。
残効性は？ 残効は7～10日程度です。
浸透性なのですか、それとも浸達性なのですか？
どちらでもないです。葉や果実の表面に保護膜をつくり、菌の侵入を抑えます。



ダコニール1000

Q3. 「みつば」の使用時期が、「根株養成期、但し収穫75日前まで」となっていますが、どんな栽培形態のことですか？

A3. 晩秋まで根株を育て、その後掘り起こしてハウスで育てて収穫する方法です。「収穫75日前まで」という制約がありますので、種子を播いて約45日程度で収穫する栽培体系では、本剤は使えません。

Q4. 「トマト」の使用回数が、「本剤4回、TPN4回(土壌灌注は2回)」となっていますが、この意味を教えてください。

A4. 「トマト」の苗立枯病(リゾクトニア菌)に「土壌灌注」で使えますが、使用回数は「2回以内」です。従って、土壌灌注処理を2回実施した場合は、本圃での散布は「2回以内」となります。もし、土壌灌注処理をしない場合は、本圃では4回散布出来ます。

Q5. 「みずな」の使用時期が「は種時」となっていますが、これは「は種前」か「は種後」かどちらなのですか？芽が出る前であれば良いのでしょうか？

A5. は種前でも後でも問題はありません。但し、は種当日に処理して下さい。

Q6. 水耕栽培の「トマト」で疫病が発生するので、ダコニール1000を水耕液に溶かしたいが、問題ありますか？

A6. 登録上の使用方法は「散布」ですので、水耕液に溶かして使用することは出来ません。

Q7. 先日、「なばな」の使用時期が変更になったようですが、どのような変更でしょうか？

A7. 平成21年8月5日付けで、「収穫21日前まで」「出蕾前 但し、収穫21日前まで」に変更になりました。使用制限を伴う変更ですのでご注意ください。

変更の理由は、薬剤の使用時期を明確にするためです。「出蕾前」を追加したのは、「なばな」の対象病害(べと病、白斑病、黒斑病、白さび病)の防除適期が、「生育期間中、出蕾前」であり、且つ花蕾形成後は汚れなどのリスクも懸念されるためです。

(注) 出蕾とは、形成された花蕾が(葉の間に)肉眼で見えるようになることです。(小川)

[目次へ戻る](#)

農薬登録情報 9月2日～9月15日までの主な適用拡大内容です

適用拡大 以下水稲除草剤の田植え同時処理が可能に！

種類	薬剤名	変更点	作物	病害虫名/ 使用目的	使用量ほか	
殺虫剤	ランネート45DF	害虫追加	茶	ミカントゲコナジラミ	1000倍	摘採21日前まで 2回以内 散布
殺菌剤	バリダシン液剤5	作物追加	ねぎ	苗立枯病 (リゾクニア菌)	400倍	は種時 1回 1㎡当り6L 灌注
除草剤	大豆バサグラン液剤 (ナトリウム塩)	使用時期追加 適用雑草名変更	だいず	一年生雑草 (イネ科を除く)	300～ 500mL/10a	だいずの生育期 (雑草の生育初期 ～6葉期)但し収穫 45日前まで 1回 畦間雑草茎葉散布
	兆1キロ粒剤	使用 時期・方法 追加	移植水稲	使用時期に「移植時」を追加し、使用方法を「田植同時散布機で施用」とする (砂壤土～埴土、1kg/10a、1回、全域の普通期及び早期栽培地帯)		
	兆フロアブル	使用 時期・方法 追加	移植水稲	使用時期に「移植時」を追加し、使用方法を「田植同時散布機で施用」とする (砂壤土～埴土、500ml/10a、1回、全域の普通期及び早期栽培地帯)		
	草闘力ふるあぶる	使用 時期・方法 追加	移植水稲	使用時期に「移植時」を追加し、使用方法を「田植同時散布機で施用」とする		
				「移植直後～移植後10日(ノビエ1.5葉期まで)」「移植直後～ノビエ1.5葉期 ただし、移植後30日まで」とする		
	シーゼットフロアブル	使用 時期 変更	移植水稲	「移植直後～移植後10日(ノビエ1.5葉期まで)」「移植直後～ノビエ1.5葉期 ただし、移植後30日まで」に変更		
				「移植直後～移植後5日(ノビエ1葉期まで)(移植後に使用する除草剤との体系で使用)」「移植直後～ノビエ1葉期 ただし、移植後30日まで」に変更		
		使用 時期・方法 追加	1L/10a	使用時期に「移植時」を追加し、使用方法を「田植同時散布機で施用」とする		
			0.8～1L/10a			
	適用土壌 変更	「砂壤土～埴土(減水深2cm/日以下)」「砂壤土～埴土」に変更				
ドニチ1キロ粒剤	使用 時期・方法 追加	移植水稲	使用時期に「移植時」を追加し、使用方法を「田植同時散布機で施用」とする (砂壤土～埴土、1kg/10a、1回、全域(北海道、九州を除く)の普通期及び早期栽培地帯)			
ドニチS1キロ粒剤	使用 時期・方法 追加	移植水稲	使用時期に「移植時」を追加し、使用方法を「田植同時散布機で施用」とする (砂壤土～埴土、1kg/10a、1回、全域の普通期及び早期栽培地帯)			

除草剤	テマカットフロアブル	使用時期・方法追加	移植水稻	使用時期に「移植時」を追加し、使用方法を「田植同時散布機で施用」とする (砂壤土～埴土、500ml/10a、1回、北海道、近畿・中国・四国の早期栽培地帯、全域(北海道を除く)の普通期栽培地帯及び関東・東山・東海・九州の早期栽培地帯)	
	ヨシキタ1キロ粒剤	使用時期・方法追加	移植水稻	使用時期に「移植時」を追加し、使用方法を「田植同時散布機で施用」とする (砂壤土～埴土、1kg/10a、1回、全域の普通期及び早期栽培地帯)	
		適用雑草追加		「コウキヤガラ(関東・東山・東海)」	使用方法、使用時期、使用回数等は、他の適用雑草と同様
	ヨシキタフロアブル	使用時期・方法追加	移植水稻	使用時期に「移植時」を追加し、使用方法を「田植同時散布機で施用」とする (砂壤土～埴土、500ml/10a、1回、全域の普通期及び早期栽培地帯)	
		適用雑草追加		「コウキヤガラ(関東・東山・東海)」	使用方法、使用時期、使用回数等は、他の適用雑草と同様

(佐伯)

[目次へ戻る](#)**病害虫発生情報**

9月7日～9月14日

福岡県

*9月9日 注意報 / 水稻 / トビロウンカ

当社登録薬剤：スミチオン粉剤 2DL・粉剤 3DL、スミバッサ乳剤 75・粉剤 20DL・粉剤 50DL、ダントツ水溶剤・粒剤・粉剤 DL・H粉剤 DL・フロアブル、パダントレボン粉剤 DL・粒剤 L、パダンバッサ粉剤 DL・粒剤、ベストガード水溶剤・粒剤など

詳細は：<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/d05/php3.html>

佐賀県

*9月8日 注意報 / 水稻 / トビロウンカ

当社登録薬剤：福岡県の項目を参照

*9月9日 注意報 / いちご / うどんこ病

当社登録薬剤：サブロール乳剤、ポリオキシン A L 水溶剤「科研」

*9月9日 注意報 / いちご / ハダニ類

当社登録薬剤：オサダンフロアブル、オサダン水和剤 25、粘着くん液剤、ロディー乳剤、ロディーくん煙顆粒など

詳細は：http://www.pref.saga.lg.jp/web/_13693.html



いちご：うどんこ病の被害果実

長崎県

*9月14日 警報 / 水稻 / トビロウンカ

当社登録薬剤：福岡県の項目を参照

詳細は：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

(柳原)

[目次へ戻る](#)

最近の「お・・美味しい！」

弊社相談室から佐伯がお送りします
最近の「お・・美味しい！」
女性の目・主婦の目・はたまた酒呑み??の目(笑)で、
毎月「これぞ！」というものを紹介します。
どうぞお楽しみに♪♪♪

フランスパンではありません！

1枚目の写真に写っているもの・・・これ、何だと思えます？フランスパンのように見えて、これ実は、油で揚げた「お麩」なのです。先日、テレビの番組で、このお麩が紹介されているのを見ました。このお麩は、宮城県登米地方で食べられている油麩(あぶらふ)というお麩で、地元ではなんとこれを、カツ丼のように豪快にご飯に乗っけて食べるのだそうです。それが、なんとも美味しそうだったので、何とかこの油麩を入手できないものか・・・と思っていたところ、同僚のTさん(仙台在住&本社勤務)が「そんじゃ買ってきてあげる」と買ってきてくれました(感謝！)。



これ なーんだ？

さっそく、その、油麩丼を作ってみましょう。 どうやって作るのかな？油麩の入っていた袋を見よう。なにに・・・？「油麩は、適当な大きさに切って、熱湯で戻しておく」。なるほど・・・。



調理中～！！！！

んで、後はカツ丼と同じ作り方で作る。おおっと、こりゃ、簡単！いいね。ラクちんで！（笑）。まず、油麩を切ります。これが、まるでフランスパンを切っているような感覚です(不思議～)。次に、それをボウルに入れて、沸かしておいたお湯をかける。ふにゃーっとなるまで、他の下ごしらえをします。具は、他に、玉ねぎと絹さやと卵です(へ・・・ヘルシー！)。さあ、仕上げです。めんつゆ入れて～、玉ねぎ入れて～、水気を切った油麩を投入！しばらくしたら、卵でとじる～ ご飯を丼によそってその上からたっぷり油麩卵とじをかけて、

絹さやを乗せたら、はい出来上がり！！なんて簡単！そして美味しそう！！

油麩・・・初めての食べる食材です。 食べたことの無いものを食べる時のドキドキワクワクする感じ・・・！久々味わいました。多分、こういう味だろうなーと思いつつも食べ一口目。おおお！なるほどねえ、思ったほどしつこくないね！なんか、「天かすをご飯に混ぜてめんつゆをかけた」みたいな感じ。でも天かすほど油っぽくない。一度お湯で戻して絞ってから調理するからかな、さっぱりしていてこりゃ美味しい！これに、桜エビ的な「魚介」の味が入ると、もっと美味しくなりそう・・・。あとね、油麩自体は味が淡白(いわゆるお麩の味)だから、吸い込む「出汁」とか「つゆ」自体が重要になってくると見た！これらに手間をかければ、もっと美味しくなるかも・・・。(と、夢は膨らむ)。今回は、たまたま家にあつた葉ショウガを刻んで酢に漬けておいたものをご飯に混ぜてみました。ご飯のキリリとした酸味が油麩と合う合う。このコラボレーションもなかなか捨てがたいですぞ！



これが油麩丼ダ！！

登米地方では、この油麩、丼以外にも、炒め物に入れてみたり、お味噌汁に浮かせてみたりと、大活躍だそうです。私も、この後、ゴーヤチャンプルーに混ぜてみました。う・・・うま！便利で美味しい食材「油麩」。東京でも売ってくれないかしら・・・。もしかしてどこかで売ってたりして・・・情報求ム(笑)！！

(佐伯)

[目次へ戻る](#)

コラム・そば談義 57

3年程前に父親が傘寿を迎えたお祝いに、妹夫婦と一緒に6人で八重山へ行ったことがある。

当時の観光旅行を振り返ると、初日は少し慌しかったが首里城を見学後、タクシー運転手の案内で地元の郷土料理を堪能した。そして、その夜に石垣島へ飛び、翌日は竹富島へ船で渡り、そこで水牛車にゆられて由布島や島内を見物した。西表島ではマングローブが生い茂る仲間川を遊覧船で眺めたりした。毎日の食事も美味しく両親の顔から笑みが絶えなかったように思う。そして、旅の最後に川平(かびら)湾の美しい海は今でも忘れられない。その父親も少し無理をすると、最近はすぐに寝込むようになった。今も病院のベッドで臥せっていると母から連絡があった。そんな知らせを聞くと、沖縄に皆で旅行ができてよかったと思うのである。



イラスト：川俣さん

さて、思い起こせば会社生活で油が乗っていた頃は30~40歳であろうか。それ以降は、経験を活かして乗り切ってきたように思える。若い頃は営業所勤務のため毎日出張することが多かった。そんなことで普及販売のノウハウは現場で教えられ、そして掴んだ気がする。そのときは他社の担当者に決して負けないという自負があった。(今思うと少し怪しい気もするが?) そんなことから上司にも生意気を言って心労をかけたと思うふしがある。今、自分がその年齢になったことで同じ思いに気付くこともある。

昨年になるが同年代の友が突然命を自ら絶った。その知らせを受けたときは、俄かに信じられなかった。なにを思い悩んでいたのであろうか。時々会うと、彼が話をしてきたことがある。それは定年後に気の置けない仲間たちと石垣島に渡り民宿をする夢だった。そこで野菜を作り、近くの海で釣った魚を宿泊客に出すのだと楽しそうに語っていた。その時、私にも石垣島に「そば」でも打ちに来ないかと誘ってくれた。そんな楽しい夢があるのに、なぜもう少し我慢できなかったのかと、非常に残念に思えてならない。

彼の話をもう少しすると、30年ほど前に我が家に遊びに来てくれたことがある。その時、赤ん坊だった長男を彼が抱いて一緒に風呂に入ったことがある。そのときの印象が強く残っているのだろうか、酔いが回ると真っ赤な顔でそのことを嬉しそうに話すのである。葬儀には連絡の行き違いで参列することが出来なかった。そのことが、今までずっと気になっていた。先日、そのことを奥さんに伝え、やっと目的がかなった。その日は供養にと、そばを打って持参した。そして、仏前に手を合わせて彼のご冥福を祈った・・・(古津)

編集後記

先日、長野と山梨の県境にある八ヶ岳の麓に行ってきた。そこは、ちょうど黄金色の稲穂と、白いそばの花が満開であった。また、標高が1300mもあることで、赤やピンクの満開のコスモスも非常に色鮮やかで快晴の青い空とよく溶け合っていた。

また、村のあちこちで祭りがあり、これが終わると一斉に稲刈りやりんごの収穫が始まる。私としては新そばの収穫が待ち遠しいが、現地での生育状況を見ると豊作間違いなしと確信したのである。



イラスト：加藤さん

[目次へ戻る](#)